

キリスト教学校教育 10

(一社)キリスト教学校教育同盟
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館72号室
電話 03(6233)8225
FAX 03(6233)8226
理事長 西原 廉太
編集人 豊川 慎
頒価200円(加盟法人の購読料は会費に含まれています)(毎月1回15日発行)

http://www.k-doumei.or.jp
E-mail info@k-doumei.or.jp

2024・2025年度教研テーマ
新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯—いのちの輝きと平和を求めて—

- ▶夏期研修報告(全国聖書科学研究会、関東地区新任教師研修会、中堅教員リトリート/関西地区夏期研修会、全国災害支援連絡会議、西南地区事務職員研修会・事務長会/教員リフレッシュ合宿、関東地区様名ワークショップ) (2~4面)
- ▶公募 (2面)
- ▶聖書のことば (2面)
- ▶キリスト教Q&A (4面)
- ▶行事予定 (〃)

隣人愛の 実践の場としての キリスト教学校



増田 賜 (たまう)

キリスト教学校は「ミッション・スクール」と総称されることがあります。同盟加盟の学校の多くが、創立の初めにミッション・ボード(キリスト教海外伝道局)から宣教師が派遣され、資金的援助を受けて始まったことに由来すると思われま。

学校法人折尾愛真学園は一人の日本人クリスチャンが他の団体から援助を受けずに私財を投じて始めたキリスト教学校であることから「ミッション・スクールならざるミッション・スクール」と創立者増田孝は語っていました。そのことは「自主独立の精神を養う」という建学の精神につながるものでもあります。軍国主義が色濃い90年前の1935年、キリスト教教育の困難な時代にあえて「若者を聖書に基づくキリスト教教育によって育てたい」との召命(calling)を与えられ「キリスト教に基づく人格教育を行う」ことを使命(mission)とする学校を創立しました。「人間にとって、使命(mission)を発見して、その使命に生きるということは、何よりも大切なことであり、私たちにはそれぞれ使命があり、私たちが創られた神の存在を信じるのが、その使命を見出す前提条件となる」「学校においても同様で、その学校独自の使命によって起こってきたのが私学であり、特にキリスト教学校においては、その使命感はcalling

(召命)とも呼ばれるべきものであり、キリスト教学校の根本精神なのである。」と創立者は語りました。

キリスト教学校は創立者の教育への志と神の召命があって始まった学校であり、現在キリスト教学校で働く者が、創立者の志(Vision)を、どう受け継いでいくかが問われているように思われます。折尾愛真学園の創立精神を簡潔に言い表すと「右手に聖書(Bible)、左手に職業(Vocation)」と言うことが出来ます。職業をVocationと言い表すのは「天職」や「召命」という意味でもあります。聖書には、働くことは神によって定められた役割であり、人間が生きるということは、何らかの仕事をする、つまり広い意味で働くことと不可分である、という考えがあります。(創世記2章)

「この世の職業や仕事場は『献身の場』であって、働くことは、神の創造と摂理の業に人が参与すること」だと宗教改革者カルヴァンは言いました。それは「労働を通して隣人愛の実践」を行い、「神の栄光のために働く」ことを目指すということでもあります。キリスト教学校で働く意味を見いだすという課題の解決の手がかりの一つとなるものではないでしょうか。

〈折尾愛真学園副理事長、教育同盟理事〉

「新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯—いのちの輝きと平和を求めて—」を主題として、3つの学校法人(日本聾話学校(ライシヤワー学校)、広島女学院、青山学院)からそれぞれの取組みについて講演いただいた後、講演内容を基に各法人を代表する方々によるグループ討議を行います。

また、今年「キャンパスツアー」の時間を設定します。本年5月にオープンした学院ミュージアムほか様々

「新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯—いのちの輝きと平和を求めて—」を主題として、3つの学校法人(日本聾話学校(ライシヤワー学校)、広島女学院、青山学院)からそれぞれの取組みについて講演いただいた後、講演内容を基に各法人を代表する方々によるグループ討議を行います。

また、今年「キャンパスツアー」の時間を設定します。本年5月にオープンした学院ミュージアムほか様々

教育同盟は毎秋、学校代表者協議会を開催しています。この協議会は各加盟法人・学校の代表者向けの研修会という位置づけで、学校運営を経営と教育の両面から具体的に考えます。講演や討議を通じて、経営・教育に責任を持つ方々が情報を共有し、キリスト教学校の新しい方向性を見出すための会議です。

今年の第67回学校代表者協議会は11月7日(金)17時~19時45分、8日(土)9時30分~16時50分の2日間、青山学院(東京都渋谷区)のガウチャー記念礼拝堂で開催されます。

「会場校紹介」
青山学院
米国メソジスト監督教会が日本に派遣した宣教師によって創設された3つの学校(女子小学院、耕教学舎、美會神学校)が変遷を経たのちに発展的に合同して成立した。

1949年に大学、1950年に女子短期大学を設立(短期大学は2022年閉学)。

1946年初等部、1947年中等部、1950年高等部、1961年に幼稚園を設立し、現在の総合学園が形成された。

昨年11月16日に学院創立150周年記念式典を開催。

第67回学校代表者協議会 11月7日(金) 8日(土) (学)青山学院で開催されます



会場のガウチャー記念礼拝堂

キリスト教学校教育懇談会 第23回講演会
イエスに出会うキリスト教学校
~愛・ゆるし・信頼~
2025年11月22日(土)13時~16時30分
Zoomによるオンライン開催 参加無料

【講演Ⅰ】「キリスト教学校でのイエスとの出会い」
酒井 俊弘氏 (大阪高松大司教区 補佐司教)

【講演Ⅱ】「キリスト教学校の教師と生徒との歩き方 ~エマオ途上のキリストから学ぶ~」
大嶋 重徳氏 (鳩ヶ谷福音自由教会 牧師)

＜申込＞
13:00-13:10 開会挨拶 開会祈禱
13:10-14:10 講演Ⅰ
14:15-15:15 講演Ⅱ
15:15-15:25 休憩
15:25-16:15 ガルバリオン山(北山)参拝(15分休憩)
16:15-16:30 閉会挨拶 閉会祈禱

申込締切は11月7日(金)です。

URL: <https://forms.gle/4KVerV1cUC5S8Ftd>

主催:キリスト教学校教育懇談会
(キリスト教学校教育同盟・日本カトリック学校連合会)
お問い合わせ:日本カトリック学校連合会
E-mail: rengouka@katholicschools.jp

キリスト教学校教育懇談会 第23回講演会
イエスに出会うキリスト教学校
~愛・ゆるし・信頼~
11月22日(土)13時~(オンライン開催)

カトリック学校とキリスト教(主義)学校が共に教育に励み、教育における連帯を目的に、その枠組みを超えて教職員が集まる貴重な機会です。テーマには、キリスト教教育の目指すもの、大切にすべきものを取り上げて学び合い、交流する機会として参りました。

今年の講演会は11月22日(土)13時~16時30分にオンライン開催されます。全体のテーマは「イエスに出会う」

当日はキリスト教学校での実践に基づく2つの講演を聴いた後、グループでの分かち合い・討議を行います。チラシ等は加盟学校法人および各設置校宛に9月に送付済みです。チラシは同盟HPのお知らせ欄からもご覧いただけます。参加希望者は、チラシにあるURLかQRコード、または右記のQR

4年に共同の営みとして「キリスト教学校教育懇談会」の活動を始めました。同会主催で毎年、両加盟学校の教職員とキリスト教教育関係者を対象とした講演会を開催しており、今年で第23回を迎えました。

カトリック学校とキリスト教(主義)学校が共に教育に励み、教育における連帯を目的に、その枠組みを超えて教職員が集まる貴重な機会です。テーマには、キリスト教教育の目指すもの、大切にすべきものを取り上げて学び合い、交流する機会として参りました。

今年の講演会は11月22日(土)13時~16時30分にオンライン開催されます。全体のテーマは「イエスに出会う」

当日はキリスト教学校での実践に基づく2つの講演を聴いた後、グループでの分かち合い・討議を行います。チラシ等は加盟学校法人および各設置校宛に9月に送付済みです。チラシは同盟HPのお知らせ欄からもご覧いただけます。参加希望者は、チラシにあるURLかQRコード、または右記のQR

申込みはこちらから

参加無料

【講演Ⅰ】
キリスト教学校での
イエスとの出会い
カトリック大阪高松大司教区 補佐司教
酒井 俊弘 氏

【講演Ⅱ】
キリスト教学校の
教師と生徒の歩き方
~エマオ途上のキリストから学ぶ~
(ルカによる福音書24章13~27節)
鳩ヶ谷福音自由教会 牧師
大嶋 重徳 氏

申込み締切は
11/7(金)です

- <行事予定> ※予定は変更することがあります
- 10/23(木)~24(金) 第67回中高研究集会 (関西学院高等部)
 - 11/7(金)~8(土) 第67回学校代表者協議会 (青山学院)
 - 11/22(土) キリスト教学校教育懇談会 第23回講演会(オンライン)
 - 11/24(月・休) 第11回キリスト教看護教育推進会議 (三育学院大学看護学部)
- 2025年
- 1/16(金)~17(土) 第68回小学校代表者研修会 (西南学院小学校)
 - 6/5(金)~6(土) 第114回定時総会 (沖縄キリスト教学校)

第11回キリスト教看護教育推進会議 申込締切 10/30(木)

11/24(月・休) 三育学院大学看護学部

同盟加盟15校の看護教育機関に勤務する教職員が、この会議を契機にキリスト教学校の看護教育についての考え方を交換し、新たな知見を共有する機会とすることができればと願います。(申し込みは右のQRコード→教育同盟HPから)

●加盟校動静

聖学院
小池茂子氏が6月30日付けで理事長を退任、7月1日付けで田村綾子氏が後任に就任

コードから申込みフォームに入り、必要事項を入力してください。

2025年夏の研修報告

第58回 全国聖書科研究集会

北海道におけるアイヌ民族とキリスト教の関わりを学びキリスト教学校の課題と可能性を共に考える

7月31日(木)～8月2日(土)、北海道クリスチャンセンターにて開催(参加者40名)

今年には総勢40名の参加者を与えられ、全国聖書科研究集会が開催されました。北海道・白老町のウポボイ(民族共生象徴空間)を訪ねる構想は数年前から温めていましたが、今年度担当地区の宮城学院・大久保直樹全国委員、現地委員として加わってくださった北星学園女子中学高等学校・小西陽祐先生のご尽力により素晴らしい出会いと深い課題を与えられた2泊3日となりました。



講演に真剣に聞き入る



原田公久枝氏による講演

「アイヌとして生き「アイヌとして生きて」と題して講演いただきました。アイヌがアイヌらしく生きられなかった125年」を背負いながら、今もなお背負わされている差別があることを教えられました。バスやスーパーでの耳を疑うような露骨な差別、他人

事でも済ませることができない人間の罪と直面させられる講演でした。その後、白老町のウポボイへ移動、国立アイヌ民族博物館を含む施設を見学し、原田さんの言葉を反芻しながら、思い思いの時間を過ごすことができました。「カントオロワヤクサクノ アランケブ シネツプ カイサム」(天から役割なしに降ろされたものは一つもない)このアイヌの諺は今も心に響き続けています。

初日は三浦志雄先生(日本キリスト教団留萌宮園伝道所牧師)から「アイヌ民族の歴史とキリスト教 現在のわたしたちの課題」と題して講演していただき

7月31日(木)～8月2日(土)、YMCA東山荘にて開催(参加者49名)

「アイヌとして生きて」と題して講演いただきました。アイヌがアイヌらしく生きられなかった125年」を背負いながら、今もなお背負わされている差別があることを教えられました。バスやスーパーでの耳を疑うような露骨な差別、他人

に分かれて、講演を受けての課題や各校の課題を共有し、祈りつつ、別れを惜しみつつこの研究集会には他教科やカトリック校からの参加者も与えられたことも、感謝でした。普段はそれぞれの場で奮闘している先生方

今年も関東地区新任教師研修会を静岡県御殿場市にある「国際青少年センターYMCA東山荘」で、7月31日

関東地区 第67回 新任教師研修会

が、この研究集会で仲間たちと出会い、共に語り、教員や牧師として働くための新たな活力を与えられる、貴重な3日間となりました。



小グループでの話し合い



ウポボイ(民族共生象徴空間)を見学

から2泊3日で行いました。この研修会では、キリスト教学校に初めて奉職する先生方から発せられる「キリスト教の学校で何をすればいいかわからない。」といった悩みなどを共有し、またそうした問

2日目は、身近な先輩として、吉田清典先生(立教池袋中学校・高等学校)と安藤修平先生(関東学院六浦小学校)より、「私の経験」についての話がありました。その後、大橋邦一先生(静岡英和女学

院)による「キリスト教Q&A」に関する話を受け、分団に分かれての情報共有・意見交換の機会を持つことを中心に1日を過ごしました。

最終日を迎え、全体での振り返りの場では2学期に向けた前向きな抱負も語られ、閉会礼拝によって無事に研修会を終えました。神様に愛され、自身の「使命」に気付くきっかけを持ち、晴れやかに研修会場を後にする

今年の中堅教員リトリート研修は、北は北海道、南は熊本から18名の先生方が、それぞれの課題をもって琵琶湖畔、同志社びわこリトリートセンターに集まりました。

中堅教員リトリート

静岡英和女学院の大橋邦一先生が2回発題をされ、発題①では、「それでも、今」と題して旧約聖書のコヘレトの言葉から、私たちが両手に一杯欲望を抱えるのではなく片手を空けておくことの大切さを学び、一人ひとりの

先生方の表情がとても印象的でした。小林晋一(関東学院六浦中学校・高等学校、新任教師研修会運営委員)

「黙想の時間」に入りました。この「黙想の時間」は、研修会の中で何度か設定されていて、場所や形はそれぞれの自由に任せられ、発題のことや自分のことなど自由に振り返る時間で

静岡英和女学院の大橋邦一先生が2回発題をされ、発題①では、「それでも、今」と題して旧約聖書のコヘレトの言葉から、私たちが両手に一杯欲望を抱えるのではなく片手を空けておくことの大切さを学び、一人ひとりの

静岡英和女学院の大橋邦一先生が2回発題をされ、発題①では、「それでも、今」と題して旧約聖書のコヘレトの言葉から、私たちが両手に一杯欲望を抱えるのではなく片手を空けておくことの大切さを学び、一人ひとりの

琵琶湖畔での2泊3日は、リトリート研修の目的である「自分を振り返ること、自分を振り返ること、自分を振り返ること」という当初の目的をそれぞれが達成した恵みに満ちた研修となりました。

5グループに別れて討議

静岡英和女学院の大橋邦一先生が2回発題をされ、発題①では、「それでも、今」と題して旧約聖書のコヘレトの言葉から、私たちが両手に一杯欲望を抱えるのではなく片手を空けておくことの大切さを学び、一人ひとりの

静岡英和女学院の大橋邦一先生が2回発題をされ、発題①では、「それでも、今」と題して旧約聖書のコヘレトの言葉から、私たちが両手に一杯欲望を抱えるのではなく片手を空けておくことの大切さを学び、一人ひとりの

琵琶湖畔での2泊3日は、リトリート研修の目的である「自分を振り返ること、自分を振り返ること、自分を振り返ること」という当初の目的をそれぞれが達成した恵みに満ちた研修となりました。

5グループに別れて討議

静岡英和女学院の大橋邦一先生が2回発題をされ、発題①では、「それでも、今」と題して旧約聖書のコヘレトの言葉から、私たちが両手に一杯欲望を抱えるのではなく片手を空けておくことの大切さを学び、一人ひとりの

静岡英和女学院の大橋邦一先生が2回発題をされ、発題①では、「それでも、今」と題して旧約聖書のコヘレトの言葉から、私たちが両手に一杯欲望を抱えるのではなく片手を空けておくことの大切さを学び、一人ひとりの

琵琶湖畔での2泊3日は、リトリート研修の目的である「自分を振り返ること、自分を振り返ること、自分を振り返ること」という当初の目的をそれぞれが達成した恵みに満ちた研修となりました。

募集 採用日11月1日 応募締切10月14日

募集 採用日11月1日 応募締切10月14日

募集 採用日11月1日 応募締切10月14日

募集 採用日11月1日 応募締切10月14日

関西地区 第67回 夏期研修会

「平和をつくりだす者として」

8月7日(木)～8日(金)、関西学院大学大阪梅田キャンパスは駅から徒歩数分。猛暑の中、快適に研修が行えました。関西学院の中道基夫院長、そしてスタッフの方々感謝します。

戦後80年という節目の研修なので、大阪女子学院大学の奥本京子先生を講師にお招きして「平和をつくりだす者」としての学びを行いました。奥本先生よりコンフリクト(紛争)解決のプロセスを実践的・具体的に教えていただきました。



グループ・セッション

先生はNARPI(東北アジア地域平和構築イニシアチブ)というNGOを組織運営され、実際にアジア地域の若者と交流し、平和構築のための活動をされています。この戦争と分断の時代に、今わたしたちがな



奥本京子氏

すべきことを教えられました。平和構築のために根気強く忍耐しながら対話を続けていく。違う価値観や文化をもった人々と「仲良くケンカ」しながら、お互いに理解を深め、お互いを尊重しなければ、平和の道へ歩むことはできないと痛感しました。紹介してくだ



2日目の朝礼拝 平安女学院大学・中尾貢三子チャプレン

さった教材「オレンジの木の下で 消極的平和・積極的平和」(ビロドロクシオン)をダウンロードして、キリスト教学校の聖書科、社会科、国語科などの授業で用いることをお勧めします!

奥本先生の講話を聴きながら、私は西南学院中学校時代に洗礼を受けた中村哲さんのことを思い巡らせていました。キリスト者としてアフガニスタン・パキスタン(ムスリムの国)で医療活動を行



田中純一氏による講演

その後の取り組みと課題」と題した講演が行われました。田中先生は、震災関連死の多くが発災から1か月以内に集中する事実を、過去の大震災の事例を交えて紹介。平時からの備えや初動体制の重要性を強調されました。さらに、高齢者や障害

今年の全国災害支援連絡会議には全国から多くの関係者が集まりました。初日は北陸学院大学の田中純一先生による「能登半島地震、

能登半島地震、能登半島豪雨の被災地・被災者支援者から学ぶ

第10回 全国災害支援連絡会議

8月7日(木)～8日(金)、北陸学院中学校・高等学校、能登半島にて開催(参加者40名)

勢は、まさにイエスキリストの姿と重なります。中村さんはコンフリクト解決のモデルを示してくれました。奥本先生の実践的な活動を私たちの生活の場(家庭、学校、地域社会)で取り入れ、平和な社会(世界)に向けて歩みたいと誓いを新たにしました。

大藪博康(名古屋中学校・高等学校 宗教教育部長、夏期研修会実行委員)



能登の「今」を目にする

島市)の被災地を視察しました。主要道路は隆起や沈下による段差や亀裂が残り、片側交互通行の箇所も多く見られました。住宅は倒壊半壊が多く、更地やブルーシートに覆われた屋根が点在。仮設住宅が整然と並ぶ一方、周囲には瓦礫や土砂が残る場所もあり、復旧の途上であることを実感しました。学生を中心にボランティアは活動しており、土砂撤去など日々作業が続いています。生活再建にはなお長期的支援が必要で、輪島の朝市では、復興計画を巡る地域内の意見対立もあること聞き、物理的復旧以上に合意形成の難しさを痛感しました。



田中純一氏による講演

また、能登鉄道の語り部から、被災と同時に乗客の安全確保に尽力した体験を聞き、非常時の職務遂行の責任を我がこととして考える機会となりました。被災直後から「日常」へ移行する過程の複雑さや、「被災後を生きる」という声も多く寄せ

初日は、西南学院村瀬泉宗主任の開会礼拝の後、折尾愛真学園の増田副理事長より、「つながる・まじわりました。また、キリスト教学校で働くことの意味として、「働くところが隣人愛の実践の場」としてそこに選ばれ、召されていることを自覚し、使命感を持って働くことが期待される」と示されました。

西南地区 第63回 事務職員研修会 第62回 事務長会

8月19日(火)～20日(水)、西南学院、アイトホテル小倉ニュータカにて開催(参加者52名)

今回の会議は、災害支援が初期対応にとどまらず、被災者の生活や地域の未来像を共に考える営みであること示しました。参加者からは「学校での防災



意識を高めた」と「生徒のボランティアへの心理的距離を縮めた」との声も多く聞かれました。不安定な天候の中、開催を支えてくださった現地の方々準備を重ねた委員の先生方に深く感謝申し上げます。能登で見聞した現実を胸に、私たちもそれぞれの場から支援を続けていきたいと思えます。

高田恵嗣(北陸学院中学校・高等学校 聖書科、全国災害支援連絡会議実行委員)

『種を蒔く人のたとえを聞きなさい』(マタイによる福音書13章18節)

天台宗の尼僧であり、小説家であった瀬戸内寂聴さんは「人間は一面だけではありません。色んな面を持っています。そのように、私たちには色んな側面があります。その中には、人からマイナスに見られてしまう部分、プラスに見られる部分があります。でも神様はそういう私たちの丸ごとを高価だと、貴重だと思って、愛してくださっています。

「種を蒔く人」のたとえでは、種を蒔く人が蒔いた種が「道端」「石だらけで土の少ない所」「茨の上」「良い土地」に落ちて、その結果を伝えています。その結果を、『種を蒔く人』のたとえの説明』では、最初の3つの場所に種が蒔かれたような人の姿を、悪い者から心の中に蒔かれた福音を奪い取られる人、関心はあっても、福音のために困難があると躓いてしまう人、この世の富への誘惑に心が塞がれてしまう人として、最後の「良い

『種を蒔く人のたとえを聞きなさい』(マタイによる福音書13章18節)

2日目は、折尾愛真長会には11法人13名が参加、各法人が提出した承合事項を基に意見を交換しました。懇親会では、各法人からの趣向を凝らした学校紹介を通じて交流が深まり、楽しい時を

2日目は、折尾愛真長会には11法人13名が参加、各法人が提出した承合事項を基に意見を交換しました。懇親会では、各法人からの趣向を凝らした学校紹介を通じて交流が深まり、楽しい時を

酒井 崇(西南学院総務・人事 給与課長)



聖書のことば



長田 吉史

土地)に種が蒔かれた人の姿を、福音を聞いて「悟る」人としています。

しかし私たちの内側には、その4つの場所すべてがあるとさえそうです。私たちには色んな側面があります。イエスは、そのすべてに福音の種を蒔き続けてくださっています。まさにイエス時代のパレスチナ地方での種蒔き方法が、まず種を蒔いてから畑を耕すという方法であったように、です。一見無駄になってしまったように見えたり、全然役に立たなかったように感じられたりしても、イエスは神様がどれほど私たちを愛してくださっているかという福音の種がきっと実を結ぶと信じて、蒔き続けてくださっています。

秋の実りを迎えるにあたり、私たちはキリストのその思いを改めて感じ、神様と私たち、私たちと私たちをつなぐ力であり、愛である聖霊の導きによって、私たちが遣わされている場のあらゆる交わりをより一層大切にしたいものであります。

(神戸松蔭大学 チャプレン)

第5回 教員リフレッシュ合宿

立ち止まってみつめなおそう

8月18日(月)～20日(水)、奈良県洞川温泉あたらしや旅館にて開催(参加者11名)

「夕立の雨音に耳を澄ませ、奈良県洞川の地で与えられている特別な時間に身を委ねてみよう。」川のせせらぎや鳥の囀りに耳を傾け、心地良い風を感じる環境は体と心に優しい2泊3日であり、参加者をリフレッシュへと誘ってくれました。



自然豊かな洞川の流れ

穏やかに参加者と出会い、食事を共にし、語り合うことで心が安らいでいきました。そして、温泉に入り、熟睡し、質の良い体の休息も与えられました。リフレッシュ合宿はひとり静まる自由な時間がベースにあるプログラムです。静まる目的が「立ち止まる」とであり、立ち止まるきっかけが備えられています。①礼拝の賛美とみことばに触れ、神様と自分の関係を黙想



二宮一美氏 水口 洋氏



互いの声に耳を傾ける



参加者の感想から合宿を垣間見ていただければ幸いです。「合宿で、喜びと感謝と自由が与えられました。自分を語りたい時に語り、何かを習得することとは違う自分の眠っていた感性を呼び起こすような体験でした。」「発題で取り上げられたエリヤとエレミアの聖書箇所から我々の陥りやすい問題にふれ、自身を振り返る貴重な機会となりました。」「一日頃、職場では経験出来ないような、コミユニティでお互いの理解が深まる貴重な体験となりました。」「印象深い言葉の数々との出会い、参加者やスタッフの皆様と語り合い、ここで過ごした豊かな時間のおかげで、心に隙間を持つ大切さを感じました。」「傾聴に支えられ、自分の視野を広げ次に進む扉を開ける勇気が与えられました。」

最後に、お互いの学校の理念や特徴を分かち合い、自身が置かれている立場や取り組んでいる課題にも目を留めることができました。キリスト教学校に遣わされた者たちが、リフレッシュを生かし、生徒の育ちを支え、良さが引き出されるために用いられることを願っています。久能木共子(玉川聖学院教諭、教育支援ネットワーク委員)

第15回 関東地区中高生会主催 榛名ワークキャンプ

久しぶりの開催!

8月13日(水)～16日(土)、高崎市・社会福祉法人新生会にて開催(参加者 高校生14名、引率教員6名)

2019年に第14回を実施して以来、新型コロナウイルス流行に伴い実施を見合わせてきましたので、実に5年ぶりに今回、第15回を開催することができました。現在在籍する高校生の中にこのワークキャンプの経験者がいない中、参加者が集まるのが不安でしたが明治学院東村山高等学校、女子聖学院高等学校、横浜共立学園高等学校、新島学園高等学校の4校から14名の参加者を得ることができました。

2019年に第14回を実施して以来、新型コロナウイルス流行に伴い実施を見合わせてきましたので、実に5年ぶりに今回、第15回を開催することができました。現在在籍する高校生の中にこのワークキャンプの経験者がいない中、参加者が集まるのが不安でしたが明治学院東村山高等学校、女子聖学院高等学校、横浜共立学園高等学校、新島学園高等学校の4校から14名の参加者を得ることができました。

ワークキャンプ参加者はボランティア研修宿泊施設である心泉の家に宿泊し、日中は7つの施設にわかれてワークを行いました。施設によって入居者の様子も異なりますので、それぞれ施設のニーズに応じたワークを行います。毎日ワーク終了後の夜、集まって振り返りの時を持ちました。それぞれの経験を分かち合いながら、時に直面した悩みを相談しあいます。ワークキャンプが始まった時は初対面の相手も多く、こちなさも見たのですが、ワークと分かち合いを重ねていく度にお互いにうちとけていきました。

夜に分かち合いにはお忙しい中、毎回職員に結核の保養所としてスタートし、現在では特別養護老人ホームから有料ケアホームまで11の施設を有する、総合的な高齢者福祉施設です。聖公会のキリスト教精神に支えられた施設で、入居者の方々にキリスト教徒が多い特徴があります。「あなたが去ることを希望されないかぎり最後までお世話させていただきます。」との「誓いの言葉」のもと、職員の方々の入居者の方々への丁寧で献身的なお世話がなされています。



ワークキャンプ参加者はボランティア研修宿泊施設である心泉の家に宿泊し、日中は7つの施設にわかれてワークを行いました。施設によって入居者の様子も異なりますので、それぞれ施設のニーズに応じたワークを行います。毎日ワーク終了後の夜、集まって振り返りの時を持ちました。それぞれの経験を分かち合いながら、時に直面した悩みを相談しあいます。ワークキャンプが始まった時は初対面の相手も多く、こちなさも見たのですが、ワークと分かち合いを重ねていく度にお互いにうちとけていきました。

日に日に成長していく生徒たちの姿は頼もしく見えました。青年たちの成長のために貴重なワークキャンプの機会と心のこもった導きを与えてくださる新生会の皆さまに心より感謝します。ぜひ来年度も開催したいと思えます。参加をご検討ください。

小栗仁志(新島学園中学校・高等学校校長、榛名ワークキャンプ実行委員長)

キリスト教 Q&A

「教会」と「礼拝堂」

女子学院中学校・高等学校 聖書科 石丸泰信



ある映画の中に「ねえお母さん、神さまはいつも共にいるって言っているのに、どうして教会に行くの?」「ママが行きたいから行くのよ」というセリフがあります。その通りだと思います。ここでの「教会」は礼拝をする場所としての「礼拝堂」のことを指していますが、神は、教会、つまり礼拝堂に住んでいるのでも礼拝堂でしか会えないのでもありません。「礼拝堂」は私たち、人が共に集まって礼拝したいと願って建てました。だから、キリスト教は「聖地」(聖なるものとして特別に区切った場所)を持ちません。むしろ、時を区切ります。日常の中に聖なる時間、礼拝の時間を持ちます。だから、日曜日の礼拝に限らず、キリスト教主義学校の礼拝の場所がチャペルでも講堂でもHRでも定められた時であれば、それは場所を問わず礼拝です。

では「教会」とは何か。「礼拝堂」を意味するだけではありません。第一には「礼拝者の集い」を指します。教会はギリシア語ではエクレシアと発音しますが原意は「呼び集められた者たち」です。この言葉には、もともと宗教的な意味は無く、会議などのために

集められた人たちを指すこともありましたが(使徒言行録19章39節)。なので、エクレシアはクリスチャンに限ったことではないのです。学校で礼拝をするために児童・生徒・学生、職員、教員が集まったとき、そこに教会があります。第二に教会とは「信じる」対象でもあります。キリスト教の「使徒信条」には「聖なる公同教会」を信ずという項目があるからです。では教会・エクレシアを信じるとはどういうことか。その一つは、自分たちは自ら集まってきたのではなく、何か目的を持って「呼び集められた者たち」=「エクレシア」だと信じることだと私は思います。入学式の朝、ヨハネによる福音書の「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」(15章16節)という言葉聞く学校は少ないと思います。嬉しそうに顔を赤くする生徒もいますし自分の努力で入学したとだけ考える生徒は驚いた顔をします。しかし、この言葉は教師、職員にも響いている言葉です。もしも同僚を自分が集めたのであれば、気が合わない人はいないでしょう。けれども、実際はきっと居るはず。誰かが別の目的のために一人ひとりを集めたのであれば当然です。これは自分自身に対しても言えます。何かのことで悩んだり、前はできていたことが出来なくなると自信をなくし自分は居なくても良いのでは、と思います。けれども、まだ自分も知らないここに集められた目的があるとしたらどうでしょう。何かの決断をするには早いかもしれませんが。私も「ああ、このために、ここに来たのか」と後に思うことがあります。礼拝の時間は自分がエクレシア・教会であることを信じて「主よ、どうして私をここに?」と思い巡らす時間でもあります。

◆参加した生徒の感想文から◆
実際に参加してみても多くの学びや気づきがありました。老人ホームという場所に対しては「黙然とした」イメージしか持っていませんでした。今回訪れた老人ホームは、私の想像していたものとは大きく違っていました。入居者の方々が職員さんと一緒に体操をしている姿がとても楽しそう、思わず私まで笑顔になりました。



事務局 だより

本紙9月号3面(加盟校 教員・職員数)一覧表の職員欄上部にある「専任職員数」「非常勤」の表記は正しくは「職員数」「専任以外」です。お詫びして訂正いたします。

木々が色づき、金木犀の香りに秋の深まりを感じる頃となりました。この秋の諸行事が、実り多い時となりますように。季節の変わり目を迎えました、お身体ご自愛ください。

事務局長